

# 万博後（2026年度以降）の展開

---

# 万博後（2026年度以降）の展開概要

- 大胆な規制改革を伴う先端的サービスを実装するとともに、イノベーションの担い手となる企業等の創業支援・ビジネス環境整備にも注力し、大阪府域につなげていく。
- スーパーシティ構想の実現に向けて取り組んだ、先端的サービスの実装と大阪広域データ連携基盤（ORDEN）を活用したデータ連携は、様々な分野へも展開し、住民のQoL向上と都市競争力の強化をめざしていく。

## 豊かに暮らす健康長寿社会

### 先端国際医療の提供

医療・健康など

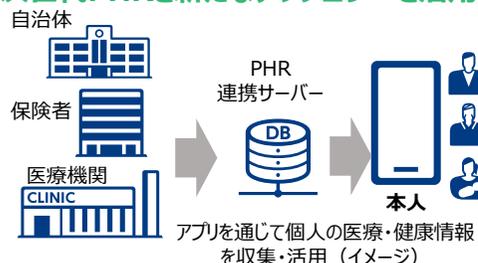
日常化された先端医療サービスの実現



### データ連携などによるサービスの高度化

医療・健康など

次世代PHRと新たなテクノロジーを活用



## ストレスフリーな最適移動社会

### 万博後のMaaS

移動・物流など

多様なサービスをつないで街を活性化



### 日常での空飛ぶクルマ普及

移動・物流など

街なかにポートが存在する日常モビリティ



出典：経済産業省HP

# 万博後（2026年度以降）の展開 先端国際医療の提供

めざす将来像

遠隔医療、AIやロボットによる診療支援などの先端医療サービスを、国籍や場所を問わず、日常的に享受することができる環境を整備し、誰もが健康で生き生きとした生活を実現。

『全ての人が最先端の医療サービスを受けることができる、未来社会』

## フェーズⅠ・フェーズⅡ

### 大阪・関西万博

#### 都市移動用のモビリティ

- 簡単な問いかけの応答やセンサーを用いたセンシングによって、自動的にデータを取得

#### ミライのフード体験

- 取得データに基づいて、食に関するアドバイスを行うとともに、未来のヘルスケアフードを提供

#### ミライのヘルスケア体験

- パーソナライズされたヘルスケア・エンターテインメント体験を提供

#### ミライの医療

- 未来の先端医療の成果を体験できる参加型展示

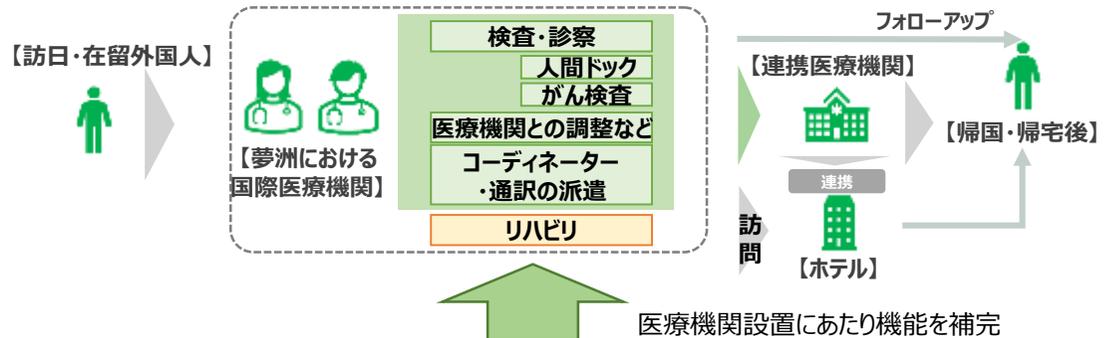
先端的サービス

## フェーズⅢ

### 先端国際医療の提供

- 外国人患者を含む全ての人が、府内の医療機関で提供される高度医療にアクセスできる医療環境を整備。

夢洲に医療機関を設置する場合に必要な医療機能（イメージ）



医療機関設置にあたり機能を補完

医療環境整備に向け、以下の規制改革を含め提案

- 外国人医師の参画  
(二国間協定の活用、英語による医師など国家試験の実施)
- 海外とのオンライン診療
- 海外承認国内未承認薬の使用

※上記はイメージであり、具体的な機能は今後検討

# 万博後（2026年度以降）の展開 データ連携などによるサービスの高度化

めざす将来像

安全に、効果的にパーソナルヘルスレコード（PHR）を活用して、自らに最適化された医療やヘルスケアサービスを楽しむとともに、PHRを活用して健康にかかわる多様な産業、サービスが発展、成長をすることを通じて、誰もがより健康で生き生きとした生活を実現。

『健康寿命が延伸し、豊かに暮らすことのできる、未来社会』

## フェーズⅠ・フェーズⅡ

### うめきた2期

#### AI分析などによる健康増進プログラム

- ヒューマンデータとAI分析などによるエビデンスに基づく健康増進プログラムの提供。

#### Station Health Care

- まちなか・便利なヘルスケア環境の構築と都市の未病対応力向上への貢献。

### 夢洲コンストラクション

#### 建設作業員の安全・健康管理

- ウェアラブルデバイスを通じて取得したバイタル情報をもとに、個人にあった適切なタイミングでの情報提供。

### 大阪・関西万博

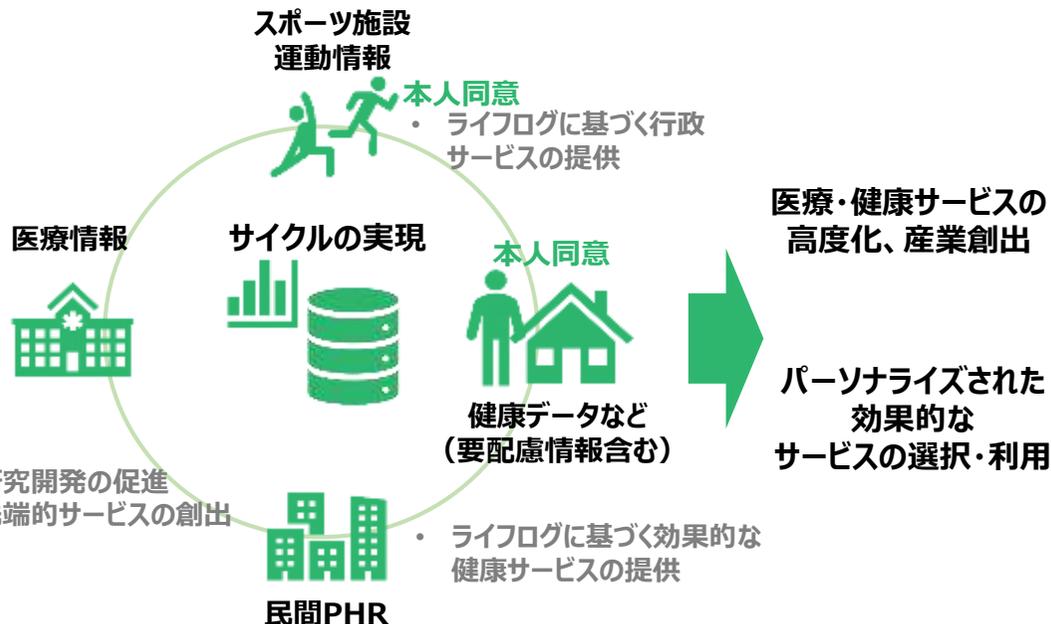
#### 来場者の健康情報に基づく体験提供

- 来場者が登録する個人情報にもとづき、個々人の健康状態を踏まえたカスタマイズされた体験を提供（飲食店案内、散策ルートの案内など）。

## フェーズⅢ

### データ連携などによるサービスの高度化

- データ連携基盤などを通じて健康、医療、介護、スポーツなど、多岐にわたるデータを繋いだ次世代PHRを活用し、AIなどの新たなテクノロジーを利用することで、健康・医療のシームレスな融合や個人への最適化など、高度化された様々な先端的サービスを提供。



先端的サービス

# 万博後（2026年度以降）の展開 万博後のMaaS

めざす将来像

自動運転の実現や様々な移動サービスがシームレスに繋がることで移動の快適性が向上し、選択肢は増大し、移動中にも様々な目的を果たすことができる、人にも都市にもやさしい都市型・広域のMaaSが実装されることで、もっと便利で快適な移動を実現。

『過密化する都市をストレスフリーに移動できる、未来社会』

## フェーズⅠ・フェーズⅡ

### 万博関連MaaSの実装

#### 大阪・関西万博

#### OSAKAファストパス（仮称）

- 万博のコンテンツや移動、混雑具合などの情報やサービスをひとまとめにして提供。快適な万博来場を実現

#### 関西MaaS協議会による広域型MaaS

- 万博関連情報の連携による関西MaaSの機能拡充

### 自動運転の実装

#### 大阪・関西万博

#### 自動運転で万博アクセス （一部をレベル4相当自動運転実施）

- 会場外駐車場などから万博会場へのアクセスの一部において自動運転を実現

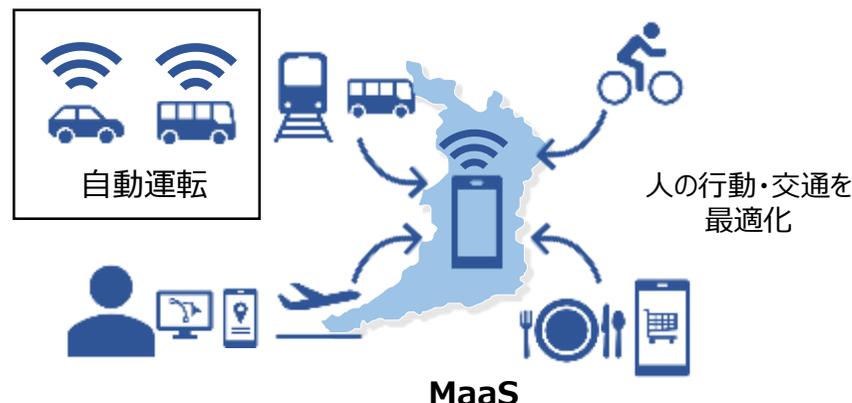
#### 自動運転を会場内移動（バス）で実現 （レベル4相当）

- 会場内のバスルートの一部（EVバス）で自動運転を実現

## フェーズⅢ

### 万博後のMaaS

- データ連携基盤などを通じて、交通、観光など、多岐にわたるデータを活用し、交通需要を予測・誘導することで、渋滞回避やCO2削減、新たな移動需要の創出に寄与する都市型・広域のMaaSの実装。



- 移動時間も楽しく
- 移動を快適に、ストレスフリーに
- デマンドコントロール
- 社会的コスト減
- 企業連携の促進
- 新サービス/イノベーション

ストレスフリーで移動できる  
未来社会の実現

自動運転や様々な移動サービスが  
つながり、新たな価値を創出

先端的サービス

# 万博後（2026年度以降）の展開 日常での空飛ぶクルマ普及

めざす将来像

主要駅やビルの屋上（Hポート・Rポート）、コンビニの駐車場、ウォーターフロントなど、市街地の様々な場所にポートが存在し、日常使いのモビリティとして空飛ぶクルマが普及し、もっと便利で快適な移動を実現。

## 『自由でスピーディーに移動できる、未来社会』

### フェーズⅠ・フェーズⅡ

### フェーズⅢ

当面の取組  
(2025年頃)

「大阪版ロードマップ」(2022年3月策定)に基づき、2025年の大阪・関西万博会場周辺での商用運航を実現。

将来への展開  
(2030年～)

・2030年頃を拡大期、2035年頃を成熟期として、機体の大型化・多様化・量産化、サービスの広域化により、広範囲に商用運航を拡大、多様な交通サービス・ビジネスを実現。



想定されるサービス

- ①「立ち上げ期」(2025年頃)  
万博会場周辺での、パイロット搭乗による定期路線の商業運航
- ②「拡大期」(2030年頃)  
自動・自律による無人飛行やオンデマンド運航へ都心部も含め移行
- ③「成熟期」(2035年頃)  
機体の大型化・多様化・量産化、サービスの広域化により、日常的な移動での利用が浸透

出典：「空の移動革命社会実装に向けた大阪版ロードマップ／アクションプラン」2022年3月、空の移動革命社会実装大阪ラウンドテーブル

先端的サービス

# 万博後（2026年度以降）の展開 規制改革の内容

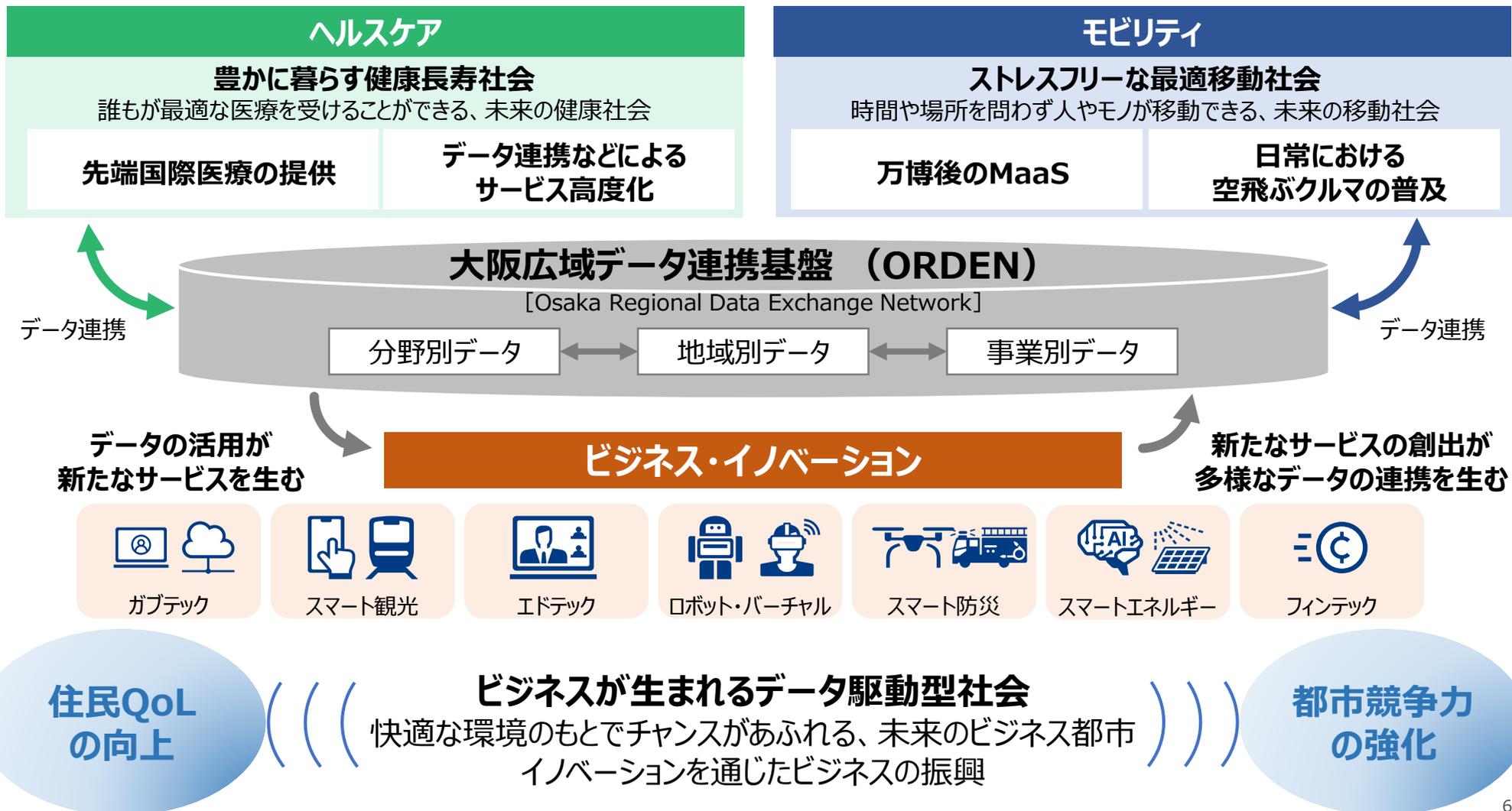
令和4年12月27日現在

大分類	先端的サービス項目	規制改革の内容	備考
先端国際医療の提供	①外国人医師の参画 (二国間協定の活用、英語による医師など国家試験の実施)	二国間協定の対象国の拡大 医師国家試験、看護師国家試験の英語による実施【医政局所管国家試験実施細則】	【検討中】 外国人統計情報、医療ニーズ等を調査・検討中
	②海外とのオンライン診療	海外からのオンライン診療の実施要件等の明確化【オンライン診療の適切な実施に関する指針】	【検討中】 具体的なユースケース等を検討中
	③海外承認国内未承認薬の使用	医療水準の高い国において承認された医薬品（国内未承認）について、医療機関による輸入を可能とする【医薬品等輸入手続質疑応答集(Q&A)】	【検討中】 具体的なユースケース等を検討中

## 万博後（2026年度以降）の展開

### 住民一人ひとりの生活の質が向上し、都市が成長し続ける大阪

- 夢洲及びうめきた 2 期において先端的サービスの実証や実装を進め、また大阪広域データ連携基盤（ORDEN）を活用した様々なデータ連携を推進することで、次々とビジネスが生まれるデータ駆動型社会が実現し、ひいては住民QoLの向上と都市競争力の強化につながっていく。



**参考：先端的サービスの創出に向けて検討が進められている取組**

---

## 先端的サービスの創出に向けて検討が進められている取組

- 民間企業や大学などの連携により先端的サービスの実装をめざす取組が推進されており、今後も様々な先端的サービスの創出が期待される。

### ■ コモングラウンド・プラットフォームの取組

- 大阪商工会議所は、Society5.0の実現に貢献する次世代都市の空間情報プラットフォームであるコモングラウンドの実験フィールド「コモングラウンド・リビングラボ」を2021年、民間企業5社とともに大阪市内に設立。
- 同プラットフォームを活用したサービス実装に向け、東京大学生産技術研究所を代表とした実施体制により令和4年度に内閣府「先端的サービスの開発・構築等に関する調査事業」を受託し調査・研究。
- 今後、コモングラウンド・リビングラボ運営委員会\*は広域の拠点構築(ハード)や拠点間連携、プラットフォームの開発(ソフト)とその産業実装・事業化を推進。

\*コモングラウンド・リビングラボ運営委員会…大阪商工会議所他民間企業5社で組織。  
ラボの構築・維持、構築費や人的負担(作業チームのリード)、交流事業の企画などを担う。

### 人とロボットが共存する多様社会の実現

- フィジカル空間とデジタル空間が融合した、次世代都市の空間情報プラットフォーム「コモングラウンド」を都市実装することで、センサーを持たないモビリティが自律走行したり、フィジカル空間とデジタル空間にいる人々が同じ場にいるかのように自然に会話をしたり、人流把握により密回避や災害時の最適な誘導を行ったり、といったことが可能になる。
- 住民だけでなく、来訪者の個人情報を特定しない形での不審者の特定、迷子の探索等を実現。
- 今後はコモングラウンドを活用し、フィジカル空間の様々な情報を都市や建築などの3Dデータに紐づけることで、人やロボット、デジタル空間のキャラクターなどが同じ認識を持ち得る環境を実現するとともに、それらが共に暮らす未来の姿を体現。

